

2022年度 久留米信愛中学校・高等学校 学校自己評価表

2022年度、本校は以下のような目標・方針・計画をもとに、教育活動をおこないます。

※評価はA・B・C・Dの4段階で行います。

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

教育目標	カトリック精神を基盤とする教育理念の上に立ち、生徒の全人格的陶冶を目指す。 生徒一人ひとりが主体性を確立し、おのおのの可能性を最大限に開発して、絶えず自分を越えて学ぶ姿勢を生涯持ち続けることのできる自己形成力を養う。 人間社会の多様性を理解し、とりわけ弱い立場に置かれた人を大切にす豊かな心を持ち、社会に秩序と平和をもたらす慈愛、信頼、寛容、感謝、協力の精神を育む。	総合評価
年度目標	生徒一人ひとりの学びと生活の状況を把握し、「手厚く寄り添い、じっくり鍛える指導」を通して、生徒の「自ら学ぶ力」を養う。 教員自らも指導力向上のため常に学ぶ姿勢を保ち、生徒とともに社会の諸問題の解決に向かって考え、判断し、行動する筋道を探りつつ課題探究の進化を図る。	

No. 1

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
			中間	年度末	年間
宗教教育	○キリスト教カトリック精神に基づく信愛教育の推進	朝終礼での祈りや授業前の黙想を通して、美しい姿勢を保つこと、沈黙のうちに自己と向き合うことを習慣化させる指導をする。	A		
生徒指導	○基本的生活習慣と規範意識の確立 ○主体性と協働性の伸長 ○教育支援活動と相談活動の充実	交通安全指導を色々な機会に行い、安全に対する意識を向上させる。	B		
		時間を守り行動する大切さを学年と連携して指導する。遅刻が多い生徒については、担任と連携し改善できるようサポートする。	B		
		生徒会の活動が、年間の行事を見越して計画的に準備実行し、反省事項を次年度に確実に引き継げるよう助言と支援をする。	B		
		関係機関およびスクールカウンセラーとの定期的な相談活動を実施し、相談体制を充実させる。	A		
教科指導	○自律学習の定着 ○正確で柔軟な業務遂行 ○ICT教育の推進	「ステラ手帳」の活用や「家庭学習リサーチ」の結果を活用した効果的指導を促進する。	A		
		新学習指導要領への円滑な移行・実施、新テスト制度への対策を進める。	A		
		ICTを活用した授業や校務のための環境整備を進める。	A		
進路指導	○キャリア教育と受験指導の徹底 ○生徒・保護者に対する進路情報の積極的提供	With コロナ時代に柔軟に対応し、流れを持ったキャリア教育の実施。	A		
		「進路のてびき」「合格のてびき」のガイダンス実施と適切な活用の促進。	B		
国際教育	○グローバル人材育成のための教科横断型プログラムの企画運営 ○国際交流プログラムの企画運営とその関連活動の支援 ○海外難関大学進学を視野に入れた一貫教育の推進 ○海外留学・海外大学進学への支援	教務部（教科学習指導関連）や進路指導部と連携し、グローバル課題やSDGsをテーマに課題探究型教育活動を企画し、実施する。	B		
		英語科と連携し、実践的英語学習の動機づけと実行を支援する。特に、4技能英語検定試験（英検・GTEC等）の受験を奨励し、ICTを活用した対策を支援する。	A		
		英語科と連携し、6カ年を通じて実践的英語学習の動機付けと錬成のための研修を企画する。	B		
		高校留学・海外進学を奨励・支援のため、奨学金等関連情報提供を積極的に行う。	A		
研修	○教科指導力と学級経営力の総合的な向上 ○各種研修会の企画と運営	学級経営を教科指導や部活動指導などと連動して行い、あらゆる面において信頼される教師をめざすための研修の機会を設ける。	B		
		全体研修の内容を精選して実施し、「Find! アクティブラーナー」を活用して主体的に参加できる研修にするなどの工夫をする。	B		
ICT教育推進	○目的の共有 ○ICT環境の整備	ICT教育を通して、生徒の主体的学びを推進する。	B		
		生徒の円滑な授業や教育活動の環境を整える。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
			中間	年度末	年間
家庭との連携	○後援会役員・評議員との事務連絡・調整	後援会役員・評議員との意見交換を行い、信頼される学校づくりに反映させる。	B		
	○保護者との連携強化	父親の集まり「信愛父親の会 Shin-ai Dads' Club」を企画・運営し、父親と学校とのつながりや父親同士のネットワークを構築する。			
	○卒業生の保護者との支援体制の構築	歴代後援会役員「百合の会」、卒業生やその保護者の支援を得て、学校の活性化を一層促進する。	B		
同窓会との連携	○卒業生情報の収集と有効な活用	卒業生による講話などを通して、先輩の活躍を知ることで、生徒の進路意識を高めることに活用してもらえるように協力する。	B		
中学1年	○基本的な生活習慣と学習習慣の確立	「ステラ手帳」を活用し、3点固定の確立と家庭学習の習慣化を図る。	B		
	○自己表現力とコミュニケーション能力の育成	「アサカツ」の時間を活用し、「読む・書く・話す・聞く」の技能の強化を図る。	B		
	○信愛生としての自覚と誇りを持ち、学びに向かう姿勢の養成	「探究活動」を通して視野を広げ、主体的・継続的に学ぶ機会をつくる。	B		
中学2年	○基本的な生活習慣と家庭学習習慣の確立を強化させる	「ステラ手帳」を活用し、3点固定と家庭学習習慣の定着をはかる。	B		
	○自己表現力とコミュニケーション能力を強化する	探究活動「リリウム」等を通して、自己の在り方を考え、互いに認め合うコミュニケーション能力を高める。	B		
	○第Ⅰ期の完成を意識させ、リーダーとしての役割を果たす	学校生活を通して将来の夢や可能性を見つけ、学習に目的意識を持つことができるようサポートする。	B		
中学3年	○生活習慣と学習習慣の確立と深化	最高学年として、自身の言動の影響と、それに伴う状況の変化を想像して、下級生の規範となるような行動ができるように導く。	B		
	○Ⅱ期の学習にふさわしい態度の育成	進路や高校新課程を見据えて修了論文・制作に取り組みせ、主体的に学ぶ姿勢、論理的思考力、表現力を身につけさせる。	B		
	○多様なあり方を受容できる力の養成	探究活動リリウムや学校行事を通して、相手の立場が自分とは異なることを理解したうえでの協働的活動を促し、様々な役割を務める機会を提供する。	B		
高校1年	○学習を中心とした生活習慣の定着	3点固定（特に学習開始の時間の固定）と学習の黄金サイクルを定着させる。	B		
	○進路目標に向かっての進路学習の深化	進路実現のためにどのようなルートがあるのかを知り、検定の取得や小論文やプレゼンの練習など、具体的な努力・経験を積ませる。	B		
	○生徒を取り巻く方々との連携	学校及び学年・クラスの状況や生徒の学校生活の様子を保護者に伝えるため、「学年だより」を毎月一回発行する。	A		
高校2年	○生活習慣・学習習慣の定着と自発的な工夫	生徒が自分の長所・強みを認識し、自信をもって前進できるよう、生徒を観察し、言葉をかけ続ける。	A		
	○進路学習の深化と進路目標の獲得	面談を通して多角的に情報を収集・分析し、主体的な進路選択を促す。	B		
	○人格形成のための経験値の伸長	世界の人々・周囲の人々の多様な価値観を学び、「自己を他者に生かす」「隣人愛」を実践する機会を創出する。	B		
高校3年	○発展的学習・指導体制の確立	教科バランスを考慮した横断的学習指導（共通得点力の養成・総合問題・小論文対策実施等）	B		
	○戦略的進路指導	「最後まで学びをやめない」実力養成と意識づくり。	B		
	○「正しく考え、正しく判断し、正しく行動する」倫理観を有する18歳成人の育成	3か年ないし6か年を通じたカトリックの学びを振り返る HR や学年活動の実施	A		